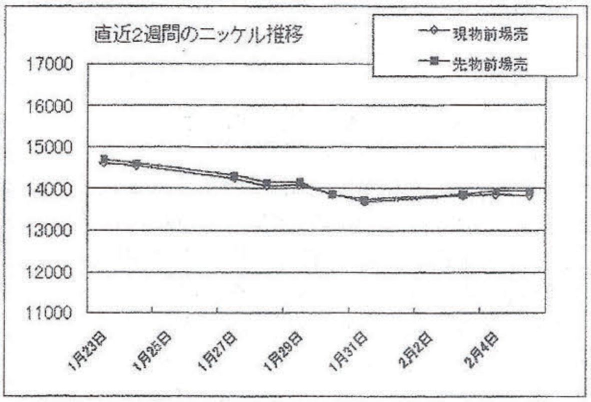
ずの1,746ドル、北米特殊アルミ合金は20.5ドル高の1,784.5ドル。

ニッケルは底値買いで後場上昇

LMEニッケル相場は15ドル高の1万3,760ドルと反発。薄商いも底値買いで後場上昇に。

KLTM錫は56.9セント反落 採算値は7,000円安

KLTM錫は、56.9セント安の73.140Mドルと反落。USドルは70ドル安の2万2,080ドルで出来高は44トン。Mドル／USドルレート＝3.3125とTTSレート102.59円で換算した採算値は7,000円安の227万円、諸掛込みの採算値は7,000円安の243万円。



橋本健一郎氏のアルミスクラップ1月レポート及び2月見通し

■概況:前半は2013年12月の米雇用統計で非農業部門の雇用者数が市場予想を大幅に下回ったことによる金融緩和縮小鈍化観測や2013年の中国自動車販売は前年比13.9%増の2198万台だったこと、11月の米建設支出は前月比1%増加、予想の0.6%増加を上回るなどのプラス材料があったが中国の非製造業PMIが54.6に低下し4カ月ぶりの低水準となったことなどのマイナス材料から下落。1717ドル(現物後場買い)と前月最終価格から62ドル下落しての前半締めとなった。

後半は12月の欧州新車登録台数は前年比13%増の94.8万台で4カ月連続増加。12月のユーロ圏CPI改訂値は前月比0.3%上昇、前年比0.8%上昇。昨年12月の英小売売上高指数が予測を上回り1996年の統計開始以降で最大の伸びとなった。またIMFが2014年の世界経済成長率を3.7%とし昨年10月時の3.6%から上方修正。1月のユーロ圏総合PMI速報値は53.2に上昇し予想の52.4を上回った。インドネシアの鉱物とボーキサイトの輸出禁止措置からニッケルアルミがなどの供給不安が台頭するなどプラス材料もあったが12月の中国新規人民元建て融資は4825億元と予想の6000億元を下回ったこと中国の景気減速を示す経済統計(12月の鉱工業生産が9.7%減少で2カ月連続)、1月のHSBC中国製造業購買担当者景気指数(PMI)速報値は前月比0.9ポイント低い49.6となり半年ぶりに好不況の境目となる「50」を下回った。またアメリカの金融緩和縮小や中国景気後退による新興国からの資金流出不安でトルコ、アルゼンチン株が暴落したことから世界景気後退懸念が台頭。2月4日現在LME(現物後場)1645ドルと前半締めから72ドル下落してのスタートとなった。

■前月の経済指標:月間のドル/円レート(TTM)は105.03→102.45(円)。日本自動車工業会による自動車生産台数は前年比+12.2%の78万6609台。日本自動車販売協会連合会による自動車販売台数(軽除く)は前年比+27.5%の29万2446台。国土交通省統計による新設住宅着工戸数は前年比+18%の8万9578戸であった。

貿易指標を見ると、財務省貿易統計による輸出はアルミ新地金が前年比-11.3%の126t、2次合金が+10.1%の1314t、スクラップが-22%の1万4145t。輸入は新地金が前年比-11.5%の10万2410t、2次合金が+11.8%の9万463t、スクラップが+17.9%の797t、合金スクラップは+67.9%の3864tとなった。

前月の国内指標を見ると、日本アルミニウム協会発表の圧延品生産出荷動向によれば板類・押出生産合計は前年比+7.1%の16万5469t。日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム2次合金・同合金地金等生産実績は前年比+3.2%の6万7821tであった。

■見通し:1月は米連邦準備理事会(FRB)による金融緩和縮小や中国景気後退観測による新興国からの資金流出問題に一喜一憂した月となった。

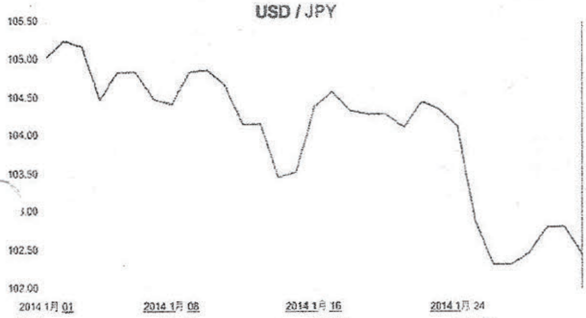
自動車生産は前年比+12.2%の78万6609tと4カ月連続プラス、乗用車は7万3,301台(12.3%)増加の66万8,033台と4ヵ月連続のプラス、トラックは1万2,142台(12.6%)増加の10万8,573台と6ヵ月連続のプラス、バスは225台(2.3%)増加の10,003台と3ヵ月ぶりにプラス、輸出(実績)は前年同月比5.1%減少。販売の方は5か月連続前年超えとなる前年比+27.5%、乗用車+28%、貨物+24.4%、バス-4.6%。新設住宅着工戸数は先月に続き16カ月連続増加の前年比+18%(前月比(季節調整済み)+1.7%)の105.5万戸でこのところ消費マインドの改善等もあり堅調に推移、持家+19.1%、貸家+29.8%、分譲住宅+2.1%、分譲マンション-7.4%となった。

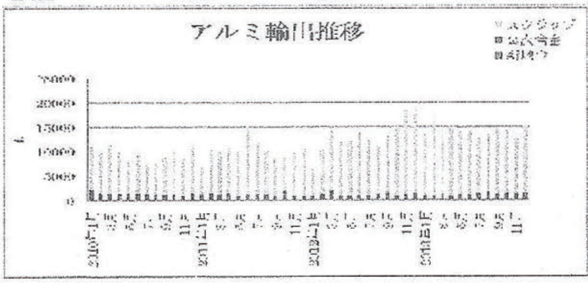
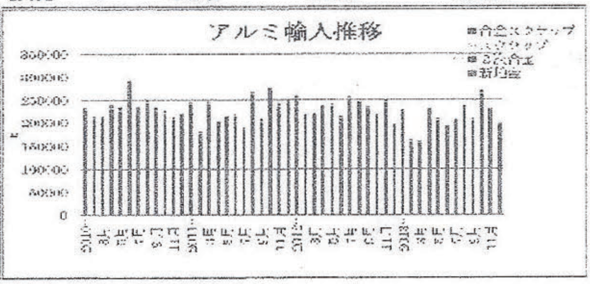
自動車関連のアルミ2次合金生産は前年比+3.2%と6カ月連続プラス。圧延・押出品生産数は+5.5%の17万2637tと3カ月連続プラス。圧延に関しては圧延・押出品生産数は+7.1%の16万5469t

と4カ月連続プラス。缶材は+1.1%で12月のビール系飲料の出荷量は前年比マイナス(対前年同月比-0.5%)となりボトル缶も減少、ビール系以外の飲料(ホット炭酸、ノンアルコール等)の好調により3ヶ月ぶりにプラス。自動車は+20.5%と前年の数字がエコカー補助金制度終了の影響で低かったのに加え消費増税前の駆け込み需要に伴う新車販売台数の好調により4カ月連続でプラス(12月の新車販売台数42万3千台、対前年同月比+25.0%)。輸出は中国、東南アジア向けを中心に需要は低調で9ヶ月連続でマイナス。輸出は新地金が前年比-11.3%の126t、2次合金が+10.1%の1314t、スクラップが-22%の1万4145t、自動車用途の多い2次合金以外は円安を背景に輸出増と見解。輸入は新地金が前年比-11.5%の10万2410t、2次合金は+11.8%の9万463t、スクラップは+17.9%の797t、合金スクラップは+67.9%の3864t、港湾在庫の少ない地金以外は内需好調により輸入増となった。

アルミ需給に関しては、住宅関連は新設住宅着工数が前年比+18%と16カ月連続増加、持家+19.1%、貸家+29.8%と大幅増、消費税前の駆け込み需要から依然好調さが伺え今後の動向に期待。待望の自動車は生産が4カ月連続上昇の+12.2%、さらに12月の国内販売台数が前年比+27.5%と大幅増で前月に続き予測の通り販売増につられて生産が増加、消費税前のかけ込み需要から住宅、自動車需要の2本柱が上昇。為替が一時100円近辺と大幅円高が進行、輸入原材料も割安感が多少台頭したものの国内原材料へのシフトが見られるがこちらも発生難から引き続き供給不足が続くと見解。ただ消費税前の駆け込み需要が終わる4月以降一旦需給は緩む。

アルミ価格に関しては、今月は春節明けの中国の動向及び新興国からの資金流出問題に左右される。中国の動向に関しては1月のHSBC中国製造業購買担当者景気指数(PMI)速報値は前月比0.9ポイント低い49.6となり半年ぶりに好不況の境目となる「50」を下回ったことから後退懸念は根強いのでないか。またそれに伴い資金流出問題も再燃する可能性は高い。FRBの金融緩和縮小も米国自身の株価がさらに下落しなければペースを落とす可能性は低く今月は希望薄。それらを踏まえたアルミ価格は、上値が春節明けに景気対策や声明もしくはFOMCで金融緩和縮小ペースの鈍化など行われた場合に1月後半高値付近の1750ドルを予測。下値は上記の景気対策などが行われなかった場合に1月後半もう一段安値の1600ドルを予測。スクラップ価格については、LME価格は先月の水準から72ドル程度下落。住宅、自動車販売の堅調や消費税増税前の駆け込み需要からの需給ひっ迫はあるものの為替は一時100円代まで進行したことや1月高値からは約100ドル程度暴落してることから-2〜-5円下落との予測。為替は上記景気対策が行われた場合に下値は他国通貨高円安から1月後半安値の104円、上値は景気対策が行われなかった場合に失望感から99円まで円高が進むとの予測。



輸出	10月	11月	12月
新地金	203t	114t	126t
前年比	+73.5%	−50.2%	−11.3%
二次合金	1128t	1340t	1314t
前年比	+73.5%	+28.7%	10.1%
スクラップ	13002t	11106t	14145t
前年比	−11.5%	−35.2%	−22%

	10月	11月	12月
生産台数	87万1434台	84万6151台	78万6609台
前年比	+10.1%	+10.3%	+12.2%
	11月	12月	1月
販売台数	26万4587台	25万4464台	29万2446台
前年比	+17%	+18.7%	+27.5%
	10月	11月	12月
新設住宅着工数	9万226戸	9万1475戸	8万9578戸
前年比	+7.1%	+14.1%	+18%
輸入	10月	11月	12月
新地金	15万6840t	13万4617t	10万2410t
前年比	+27.1%	−13.1%	−11.5%
二次合金	10万6996t	9万189t	9万463t
前年比	+21.7%	−0.1%	+11.8%
スクラップ	656t	880t	797t
前年比	−44.5%	+39.5%	+17.9%
合金スクラップ	5009t	5373t	3864t
前年比	+28.8%	+73.8%	+67.9%